

いずみさの昔と今 第357回

「パンフレットから読み解く鉄道会社のPR活動」

進行中のプロジェクト「鉄道のまち泉佐野」にちなみ、レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのでは、鉄道をテーマにした展示会「鉄道のまち泉佐野 今昔物語」を開催中です。今回は昔の観光パンフレットを紹介します。

昭和初めの1930年代、南海鉄道・阪和電鉄ともに力を入れていたのが観光です。当時は自家用車が現代ほど普及しておらず、バスも駅と観光地を結ぶ短距離バスであったため、観光地へ向かう手段は鉄道がほとんどでした。そこで、利用客を増やすために力を入れたのが観光パンフレットの作成です。四季折々の情報を掲載し、工夫を凝らしたデザインの表紙は人々の注目を集め、観光意欲を高めるのに一役買っていました。展示中のパンフレットから、興味深い資料を2点あげてみます。

1点目は、当時夏のレジャーとして人気だった魚釣りの案内です。おもに海沿いを走る南海鉄道にとって、釣場案内は利用客を増やすためにも大切な情報でした。表紙には家族で船に乗り、魚を釣る様子が紹介され、中面には最寄り駅、釣り船の料金、宿泊者向けの旅館料金、季節ごとに釣れる魚の一覧表が載っています。昭和15（1940）年のパンフレットによると、釣り船の料金は船頭2人付きの大型船で13円（現在の価格で約14,000円）となっていました。夏はタイ、キス、チヌ、タコ、ガツチョなどの魚があげられています。また、南海鉄道は魚釣り客向けに早朝列車も運行していました。昭和15年には、朝3時50分に難波を出発し和歌山方面へ向かう電車がありました。

2点目は、おもに内陸部を走る阪和線が積極的にアピールした、秋の松茸狩りの案内です。昭和初め頃は沿線の山々には松林が広がっており、多くの松茸が自生していました。そこで阪和線は松茸狩りと松茸ご飯食べ放題を宣伝し、利用客の獲得を目指しました。昭和10（1935）年のパンフレットによると、松茸ご飯食べ放題が20銭（現在の価格で約350円、400円）となっていました。ビールが40銭、サイダーや酒が20銭であることを考えると、手ごろな価格で楽しめるレジャーであったことがうかがえます。また「すき焼き（かしわ40匁（もんめ））」が65銭とも書かれています。来館者の人から「昔はすき焼きでも松茸ばかりだった。肉が食べたかったの

で、松茸をかき分けて肉を探した」と教えていただきました。松茸狩りの時に出されたすき焼きも、おそらく松茸中心だったと考えられます。肉の量をわざわざ書いてあるのも、肉の多さを強調したかったのかもしれないですね。その後、松林の減少などにより収穫量が激減し、松茸は高級食材へと変わっていきました。



▲昭和10（1935）年の阪和線 松茸狩り案内

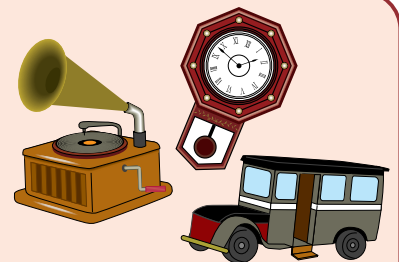
観光パンフレットは、かつてのレジャーの様子が当時のにぎわいといった、様々な情報を現代に伝える重要な資料なのです。
*かしわ40匁：鶏肉150g

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

⑮駅シリーズ 南海鶴原駅



▲昭和26年ごろの鶴原駅の写真。鶴原駅は泉佐野駅に続き、大正5年に開設されました。



▲昭和40年ごろに撮影された鶴原駅周辺の空撮写真。写真左側の駅周辺から海側にかけて、工場らしき建物や家などが多かったことがわかります。



▲現在の鶴原駅の様子。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中！